

第29623号(日刊)

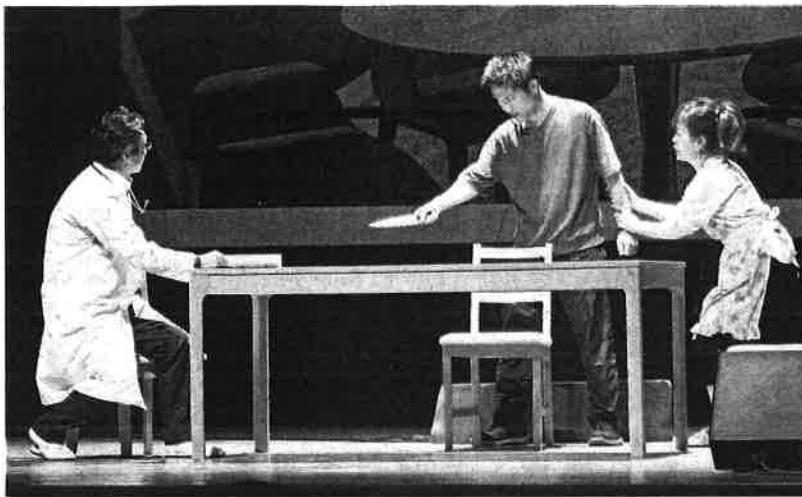
# 北海道新聞

## 釧路

釧路支社 釧路市黒金町11丁目  
 〒085-8655  
 報道部 0154-31-2713  
 FAX 31-2717  
 kushiro@hokkaido-np.co.jp  
 販売部 31-2719  
 広告部 31-2724  
 事業部 31-2728  
 厚岸支局 〒088-1120  
 厚岸町山の手1丁目103  
 0153-52-2403 FAX 52-7560  
 弟子屈支局 〒088-3211  
 弟子屈町中央2丁目8  
 015-482-2597 FAX 482-1034

## 不登校の子 本来の特性伸ばせ

### 弟子屈でフェア 対談や経験者ら演劇



不登校の実体験を元に披露された劇

【弟子屈】不登校の若者の自立支援を行う塾「NPO法人ダルボイ・アカデミー」などは14、

15日、不登校への理解を深めてもらうフェアを町内で初めて開いた。教育をテーマにした対談や、

不登校を経験した卒業生らによる演劇などが披露され、各日200人超が来場した。

同アカデミーは神戸の本校と弟子屈キャンパスの2校で、塾生が学習活動と就業体験を行う。

14日は、発酵学者で東京農大名誉教授の小泉武夫さんと同アカデミーの大越俊夫塾長が「これでいいのよ、日本の教育」と題して対談した。

大越塾長が「コメ問題不足が問題となっているが、本当に深刻なのは子どもの自殺が増えていることだ」と提起。不登校支援をしてきた自身の経験から「不登校の子に共通するのは世話好きで動植物に優しく、(人を蹴落とす)競争が嫌いとい

うこと。本来持っている特性を伸ばしてやれば可能性は無限」と述べた。

小泉さんは「心は開くためにある。大人が子どもに本当に生きがいを示すことができたとき、子どもも変わることができると話した。

15日は、卒業生の実体験を元に三つの劇を上演。子どもの不登校に親が外聞を捨てしっかり向き合うことで、家族の再生が始まる姿を、卒業生とその両親が演じた。大越塾長と塾生、卒業生による座談会では、若者が「自分たちを元気にしてくれた弟子屈のために動いて地域を元気にしたい」と述べた。

(高橋力)